

えどがカボランティアセンター



出会い ふれ合い) 助け合い

令和6年8月発行 第67号

SUSTAINABLE GALA



















【発行】

公益財団法人えどがわボランティアセンター 〒132-0031 江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス 電話:03-5662-7671 FAX:03-3653-0740

















江戸川区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けてSDGsに積極的に取り組んでいます



理事長及び理事長の就仟について

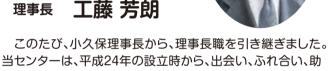
ボランティアの皆さまの 一層のご活躍を願って

小久保 晴行

このたび、令和6年6月18日をもちまして理事長を退任し、名 **誉理事長に就任いたしました。私とボランティアとの関わりは** 昭和62年からですが、終始一貫して、ムリなく、ムラなく、ムダな く、相手の立場にたって行動をすることを基本としてきました。 今後は名誉理事長として、当センターの更なる発展とボラン ティアの皆さまの一層のご活躍を願い、尽力してまいります。 どうぞよろしくお願いいたします。

ボランティアに愛される センターをめざして

どう よしろう



け合いを基本として運営されております。 私は、微力ながら、約半世紀にわたる、環境・緑のボランティア 活動を糧として、この3つの「あい」(愛)の精神を受け継ぎ、ボラ ンティアをはじめ区民の皆さまに一層愛されるセンターをめざ してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。



ボランティアの心を育む「たちばなマインド」とは 松江第五中学校 荒巻 淳 校長にインタビュー!





松江第五中学校では【たちばなマインド】というキーワードを掲げ、 ボランティア活動をはじめ学校や地域の中で自分のよさや個性を生 かしながら、前向きに行動・表現する生徒の育成に力をいれています。 今回は荒巻校長に、活動のきっかけや生徒の変化についてお聞き しました。

)たちばなマインドの活動とは?

入学時、生徒たちにカード(たちばなマインド証)が配られます。実 践報告用紙に「自分が実践したこと」と「そのことによって何を学ん だのか」を記入し、カードと一緒に専用ポストに投函。実践数に応じ てスタンプが押印、校長からのコメント入りでカードが返却されま す。スタンプがたまるとカードもシルバー、ゴールドへグレードアップ。最高峰はウルトラゴールドカード。ゴールドで顕著な実績を残し た生徒は、校長室前に名前が掲示され、卒業後も残ります。掲示さ れる生徒の数は年々増えています。

(4面へ続く)

問合せ先

(公財)えどがわボランティアセンター 203(5662)7671

2024 ボランティアフェスティバルの概要が決

1 日 時 12月7日(土) 10:00~15:00

2 会場 タワーホール船堀 1階展示ホール

3 内 容 (1)展示コーナー

(2)ステージコーナー

new! new!

(3)イベントコーナー

(4)ボランティア募集掲示板

(5)ギャラリー



「ボランティア募集掲示板 | 及び「ギャラリーの募集 | は秋ごろを予定しています。 フェスティバルに関する内容は当センターホームページをご覧ください。



昨年のボランティアフェスティバル

2024 夏のボランティア体験実施中

毎年好評の夏のボランティア体験を開催しています。今年も体験先を拡大して実施しています。

この夏休みを利用して、ボランティア体験をしてみませんか?

【実施期間】8月31日(土)まで

【参加資格】当センターで開催する説明会に参加した、

原則区内在住の小学生以上の方

【参加費用】無料(別にボランティア保険料350円がかかります)

【体験施設】高齢者・障がい者施設、ボランティア団体、図書館、

保育園、すくすくスクール等

※説明会は事前予約制。Googleフォーム・電話・窓口で受付します。

※体験先は先着順です。また年齢などで体験できる施設は異なります。



昨年の保育園での体験の様子

入門講座「障がいを知ろう」

※申込みは当センターにて受付中

車いす利用者や視覚、聴覚の障がい者の方のお話から障がいを知り、誰 でも楽しめるパラスポーツボッチャを体験して、講座を通して自分にできる

ことやボランティアを一緒に見つけましょう。

皆さまのご参加をお待ちしております。

1 日 時:8月17日(土)13:00~15:00

2 会 場:グリーンパレス2階 高砂・羽衣

3 費 用:無料

4 定 員:30名

5 講 師:江戸川区福祉ボランティア団体協議会のボランティア(主催者)

6 後 援:公益財団法人えどがわボランティアセンター

このページのお問い合せ先

(公財)えどがわボランティアセンター 16.03-5662-7671

「江戸川区の昔話を語り継ぐ会」のお話し会が開催されました

6月14日(金)に「なごみの家松江北」で「江戸川区の昔話を語り継ぐ会」(代表:八角尚見さん)のイベントが行われました。

昔の「松江の街」のこと、松江三中と松江四中との不思議な関係、京葉道路と環七ができたころの話など語り継がなくてはならない昔話と、メンバーの多田正見さんからも独自の視点から貴重な話がありました。そのあと、メンバーが紙芝居で昔話を披露して、約20人のお客さまは楽しそうに聞いていました。



「手話ボランティア養成講座」を開催しました

5月29日・6月5・12・19・26日(水)に全5回で、グリーンパレスで開催され、12名が参加しました。「聞こえない、聞こえにくい人が困っていること」「手話での挨拶、自己紹介」「聴覚障がい者との交流」などを手話ボランティア講師から学びました。

今後、手話ボランティアとして活躍 していただく予定です。





ではある。これである。

1 内容 … 出来上がったボランティアセンターだよりを当センター(グリーンパレス)まで取りに来ていただき、 各町会の担当の方にお届けするボランティア活動です。

2 日 時 … 奇数月の第4火曜日の発行日 (9月24日、11月26日、1月28日、3月25日)

3 エリア … 南小岩、西小岩、北小岩、西葛西、鹿骨、平井、小松川 など(詳しくはお問い合わせください)

4 交通費 … 支給なし

5 連絡先 … ボランティアセンター TEL5662-7671

84 使用这么

使用済み切手 換金報告

edogawa

換金額 ¥29,820 (総量 42.6kg)

ボランティア・寄贈者の皆さまご協力ありがとうございましたボランティアの振興に有効に使わせていただきます。

Volunteer Center

ありがとう。

5月・6月分

●使用済み切手 受領:37件/11.8Kg

ボランティアの振興に、有効に使わせていただきます

ボランティア団体登録数

登録団体数:166団体 登録人数:3,641人 (令和6年6月末現在)

(1面からの続き)

●たちばなマインドを始めたきっかけは?

日本人の特性なのか、できるのに発信しない生徒が多くて学校外でやってい るすばらしいことを知るすべが欲しいと思いました。友達にも自慢しにくい、担 任にも言いづらい、こんなこと言っていいのかなって思う。友達と比べて表に出 せない。そうではなくて「自分のものさし」を持ってほしいと考え始めました。

私はコロナ期に着任し、突然それまでの活動が全部ストップしたのでコロナ 禍でもできる活動を見出したかったのです。ちょうどその年は開校60周年で記 念誌を読む機会があり、その中に「たちばな」がいっぱいでてきて、「たちばな」が 校章になった理由に生徒たちが健やかに自分たちのよさを伸ばしていくという のがあって、これだ!と思ってたちばなの精神【たちばなマインド】を掲げました。

本校には特別支援学級があります。その中にも嬉しいことにゴールドカードを

持っている生徒がいます。どうしても始めは参加しにくいとか、参加してもいいのかなと思う生徒がいましたが、一番の キーワードは「ものさしは自分」。自分でこれを頑張ったとか、努力したことは報告するとポイントが上がってきます。 ゴールドカード取得者は学校だよりで名前を載せますから、相乗効果で全体の動きが活発になっていきます。

地域祭り等のボランティア募集にも牛徒たちは積極的に参加しています。スタッフの皆さんも牛徒の気持ちをわかって くださっていますので、これもやりたい、あれもやってみようかなとなってきています。



●たちばなマインドのねらいは何ですか?



私は投函されたカードと実践報告を読んでコメントを書き、担任に返します。 担任はそれを読んで生徒が実践したことを知ります。また生徒本人が私からの メッセージを読む。トライアングルの関係を繰り返すうちに段々と生徒たちの モチベーションが上がってきます。自己肯定感が高まって相乗効果になってい く。実践報告の文章も添削して、学校のことを知らない人が読んでも通じる 「表現力」を高める一石二鳥をねらっています。

これは生徒の進路にも結び付く。高校進学時の面接で、自信をもってこれを がんばりましたと言える。実際に面接にカードを持って行った生徒もいます。通 知表に載るのは学級委員とか委員会活動、係活動と部活だけです。地域の活動 は通知表には載らないのでそこに焦点をあててあげるという取り組みがこの 活動のねらいです。

●始めた頃の反応はどうでしたか?

最初は活動をする生徒は少なかったです。区から"お背中流し隊"とか"肩こり なくし隊"とかの通知がきたら、私が加工します。トップに「〇〇大作戦、学校と して個人として協力しましょう」と呼びかけると生徒たちは食いついてきます。 奉仕活動・貢献活動をする意識が高くなってきていて、たくさんの生徒がいろ いろなことにチャレンジするようになっています。ボランティアという言葉は けっこう重く感じる生徒もいるので、自分ができること、ささいなことでも 何かの役に立っているという自覚をいかに作り出していくかというのをいつも 心がけています。



●生徒に変化はありましたか?

自分の行動が誰かを助けるとか、役に立っている認識ができるようになりました。クラスの中の係もクラスへの貢献だ し、地域の中でちょっとゴミを拾ったり、地域のお掃除に参加したりも地域貢献になってる。最近ではボランティアの案内 があると、意識して参加しようとする生徒が圧倒的に多いです。

前向きに努力することが中学生にとって今大切な時期で、なんでも吸収できる時期です。震災の被災地で中学生、高 校生がすごく活躍するのですが、その時の発想の支えになるのがこういった小さな活動かなと思います。

今年1月の能登地震では、始業式の日に生徒会長が「校長先生、募金運動したいんです」と言ってきました。一之江駅 前で手作りの横断幕を掲げながら募金運動をやりました。学校内の募金と合わせて14万円集まりました。生徒会自らい ろいろなボランティア活動をやってくれてうれしく思います。

問合せ先 (公財)えどがわボランティアセンター 🏗 03(5662)7671